

遠隔日本語教育における作文指導の可能性 —コミュニケーションのための文章作成能力を育てる試み—

貝原実貴（早稲田大学）

1. はじめに

問題意識

- ・学習者は、Skype授業と、対面授業との間にどんな違いを感じているのか。
- ・学習者がSkype授業で否定的に感じるのはどんなところか。教師は何ができるのか。

パイロット調査： 学習者22名にアンケート調査

- ・自身の性格が、外向的だと答えた学習者がいなかった。
- ・Skype授業の否定的な点：
 - 孤独感がある（10名/58.8%）
 - あまり社会的ではないと感じる（11名/64.7%）
- ・今後取り組みたい項目：
「書く練習」（17名/81%）

BBS

2. 研究目的

BBSの場を設けることで、学習者がSkype授業に対して抱く否定的な側面を補うことができるか。

BBSへの書き込みとSkype授業を並行して、文章作成をする活動を行うことで、書くことに馴れ、「**コミュニケーションのための文章作成能力**」を養うことができるか。

自分が伝えたい事柄を読み手に伝えることができる能力

書くコミュニケーション

（メール、ブログ、SNS etc…）

初級学習者（国外在住）

- ・書く機会が少ない
- ・日本語で書いたとたん、話題にまとまりがない文章になる

3. 研究方法

研究対象

日本国外在住、初級レベル
大学等の日本語教育機関に所属しない成人学習者
英語が母語もしくは英語が流暢

1. 準備シートの記入

- ・英語のパラグラフライティングの手法を意識
- ・文章の全体の構造を考える
 - 1) はじめ
 - 2) なか
 - 3) おわり

2. BBSに作文を投稿

自分にまつわる説明文の作文を書く。

3. BBSで意見・情報交換（グループ）

同じグループの学習者は、作文を読み、意見や情報を書き込む。

4. Skypeでフィードバック（1対1）

- ・誤用訂正
- ・「まとまりのある文章か」「相手に伝わる分かりやすい文章か」

➡ 段落・文章型の指導

5. Skypeで半構造インタビュー（1対1）

- ・難しかった点、今後望まれる改善点
- ・今後も継続したいか
- ・書くことに自信がもてるようになったか

6. 作文の評価

- ・日本語教師10名
- ・「まとまりのある文章か」
- ・「相手に伝わる分かりやすい文章か」